

〔 競 技 注 意 事 項 〕

- 1 本大会は2026年度日本陸上競技連盟競技規則ならびに本大会競技要項によって行う。本大会は、日本陸上競技連盟公認競技会として実施するが、ワールドアスレティックス（WA）のワールドランキングコンペティション（WR k対象競技会）としては実施しない。そのため、競技会で出された記録は国内の公認記録としては認められるが、WAワールドランキングや国際大会（オリンピック・世界選手権など）の参加資格など、WA記録集計の対象とはならない。
- 2 スタートは国内ルールを適用する。
- 3 競技場への入退場について
 - ・観戦については正面スタンドおよび芝生スタンドのみ可とする。
- 4 アスリートビブスについて
 - ・競技者は必ずアスリートビブス（規定のもの）を胸・背部に確実に付ける。ただし走高跳、棒高跳は胸・背いずれか一方でよい。走幅跳・三段跳は胸に付けるだけでもよい。
- 5 招集について
 - ・すべての種目において、競技時間表記載の招集時間に招集所（スタンド下競技者係室前）にて招集を受ける。
 - ・招集完了時刻に遅れた競技者は欠場するものとして処理する。なお、他の出場種目の競技時間の関係で招集時間に招集を受けることが難しい場合は、事前に招集所に申し出る。
- (1) トラック競技
 - ・腰ナンバー標識を招集時に受け取り右腰に付ける。
 - ・腰ナンバー標識は、フィニッシュ後直ちに係員に返却する。
 - ・リレーについては4人揃って招集を受ける。リレーオーダー用紙は予選は招集完了30分前までに、決勝は招集完了1時間前までに招集所に提出する。
 - ・招集完了後は、スタート時間10分前にスタート地点に集合し、最終コールを受ける。
- (2) フィールド競技
 - ・招集完了後は、招集完了時間をめどに競技場所に集合する。
- 6 競技場所への移動と解散について
- (1) トラック競技
 - ① 最終コールを受けていない選手は競技に参加できない。
 - ② スタート練習は、スタート地点集合以降、役員の指示に従って行うこと。
- (2) フィールド競技
 - ① 招集開始以降すみやかに競技場所に移動し、競技終了まで競技役員の指示に従って競技場内で練習を行うこと。競技場以外での投てき練習は一切禁止とする。
 - ② 特に、投てき競技については危険をとまなうので勝手な行動はつつしむこと。競技前、競技中の練習で使用する器具はタオル等、人に危害を加えないものに限る。やりの突き刺し練習、砲丸の打ち付け練習は禁止する。
 - ③ 退場は、跳躍および投てき競技役員の指示・誘導により行う。
- 7 走路順・試技順について
- (1) トラック競技の走路とフィールド競技の試技順は、プログラム記載の番号順とする。
- (2) 欠場者のレーン空ける。ただし800mは出発係の指示による。

8 競技について

- (1) トラック競技において1/100 秒単位で同タイムの場合は、1/1000 秒単位で判断する。
- (2) セパレートレーン使用の競技では、フィニッシュした後も他の競技者の安全のために、自分に割り当てられたレーン〈曲走路〉を走るものとする。
- (3) 同一選手がトラック競技とフィールド競技を同時刻に兼ねて行う場合は、トラック競技を優先とし、フィールド競技は同一ラウンドにおいて競技役員の許可を得て順序を変更することができる。
- (4) 競技運営・進行上、男女 5000m、男子 10000m、男女 5000mW について、スタート後以下の時間で競技を打ち切る。制限時間は号砲で知らせる。号砲が鳴った時点で競技を続けている選手はコース外に出ること。

男子 5 0 0 0 m	2 0 分	女子 5 0 0 0 m	2 5 分
男子 1 0 0 0 0 m	4 0 分		
男子 5 0 0 0 mW	3 5 分	女子 5 0 0 0 mW	4 0 分

- (5) フィールド競技における競技開始前の練習は、競技役員の指示によって行う。
- (6) 三段跳の踏切板は男子 1 0 m、女子 7 m・9 mで行う。ただし審判長の判断で変更することもある。
- (7) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方については下記のとおりとする。(変更もあり得る)

男子走高跳(練 1.55 1.80) 1.60 1.65 1.70 1.75 1.80 1.85 以後 3cm 刻み

男子棒高跳(練 2.40 3.20 3.80) 2.60 2.80 3.00 3.20 3.40 3.60 以後 10cm 刻み

女子走高跳(練 1.25 1.45) 1.30 1.35 1.40 1.45 1.50 以後 3cm 刻み

女子棒高跳(練 2.00) 2.20 2.40 2.60 2.80 以後 10cm 刻み

9 競技の番組編成について

- (1) トラック競技の準決勝以降の進出者の発表は、アナウンスするとともに速報サイトに掲載する。
- (2) トラック競技で同記録の場合、写真判定で着差があれば着順を優先する。
- (3) トラック競技のプラス取りの決定については、記録の上位の選手から取る。同記録の場合は 1000 分の 1 秒までの判定により進出者を決定する。それでも決まらない場合は抽選を行う。

10 競技器具について

競技に使用する器具は、すべて主催者が用意したものを使用する。ただし「棒高跳用ポール、やり」については個人所有のものの使用を認める。「やり」は公式検定を競技開始 1 時間 3 0 分前から 1 時間前に本部にて検定を受けること。

11 スパイクピンの長さについて

スパイクピンの長さは 8 mm 以下とする。ただし走高跳・やり投は 1 2 mm 以下とする。

12 抗議について

抗議にあたっては、記録が発表された時間を基準とし 3 0 分以内(予選は 1 5 分以内)に本部(総務員)に口頭で申し出る。

13 プログラム記載のミスについて

氏名等がプログラム印刷と異なる場合は、早めに本部の庶務担当に申し出て訂正してもらうこと。

14 競技中の事故について

競技中に生じた事故については、応急処置はするが以後の責任は負わない。

15 表彰について

各種目の優勝者には賞状・選手権賞並びに中日新聞社賞、2 位・3 位には賞状を授与するので、本部(表彰係)から受け取って帰宅する(表彰式は行わない)。

16 各団体の控え場所について

各団体の控え場所は、正面スタンド・国旗掲揚塔を除くトラック外周を使用可とする。

17 ウォーミングアップについて

(1) 競技開始前のウォーミングアップは競技開始15分前までとする。

競技開始前のウォーミングアップは長距離が1・2レーン、ハードルは外側2レーンを使用する。

ハードルを使った走練習はトラック以外では禁止する。

ウォーミングアップ時のジョギングに関してはトラックの内側で競技会準備の支障にならないように行うこととする。集団でのジョギングは禁止する。

ホームストレートと第4コーナー出口付近では接触の危険性が非常に高いので、係の指示に従うこと。

(2) 競技中のトラック使用のウォーミングアップは下記の条件付きで認める。

① 場 所：第1曲走路の中間地点から200mのスタート地点手前。完全に停止すること。

② レーン：6、7、8レーン

③ 可能な種目時間帯：100m、100mH、110mH、1500m、5000m、10000m、5000mW（ただし7.8レーンのみ）

④ 1500m、5000m、5000mWのスタート時は不可とする。

⑤ 種目間、組間の空白時間帯で準備に支障をきたさない時。

⑥ 400mHは、100mの時間帯にバックストレートで行う。

18 監督・コーチ・顧問はスタンドから撮影した競技中の映像を見せるために情報端末を選手に渡してもよい。

ただし選手は情報端末を待機場所に持ち込むことはできない。

19 その他

- ・記録の発表は上位競技者のみ放送にて行う。記録の掲示は行わないが、速報サイトに期間限定で掲載する。
なお、後日リザルトをHPに掲載する。
- ・ゴミは各自で持ち帰り、自宅で処分する。
- ・その他、競技役員の指示があった場合はその指示に従う。

◆選手の人権保護の観点から、写真・ビデオ撮影について、以下の点にご協力ください◆

監督・コーチ・顧問以外の写真またはビデオ撮影について

※本人の了解がない撮影を禁止します。

※撮影を許可するエリアは、スタンド（正面スタンドおよび芝生スタンド）のみとします。

その他のエリアでは撮影はしてはいけません。また、以下の場合の撮影を禁止します。

・選手がスターティングブロックの足あわせをしているとき

・試技の準備をしているとき（試技を待っていたり、身体を動かしたりしているとき）など

※また他者に著しく迷惑をかける行為として主催者で判断した場合は、すみやかに警察および関係機関に連絡します。